

「長期経営ビジョン」の骨子

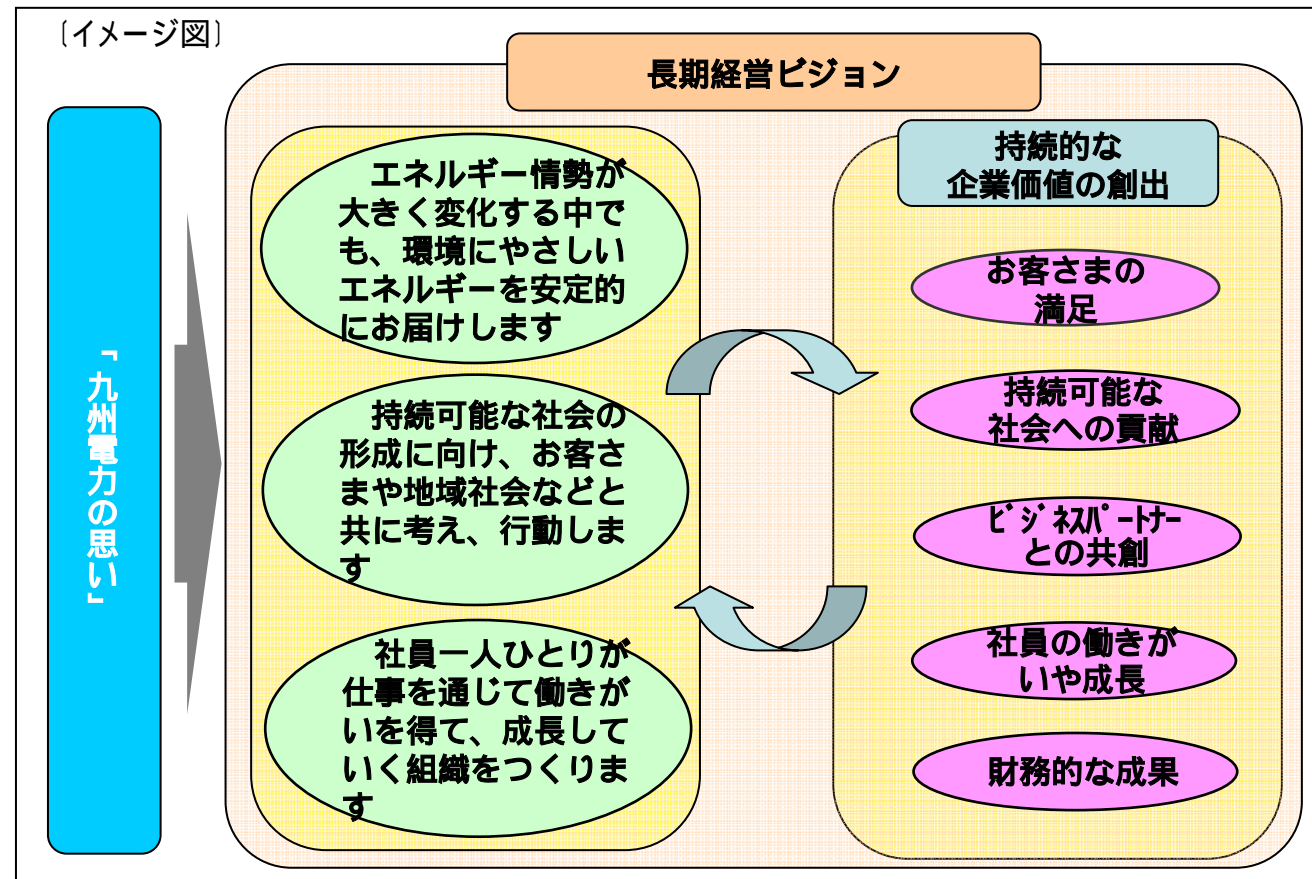
1 経営環境の長期的な見通し

- エネルギーセキュリティや地球環境問題の重要性の高まり
 - 世界のエネルギー需給は構造的にタイト化していく傾向
 - 温室効果ガスを半減させる必要があるとの認識の世界的な高まり
 - 電力供給インフラにおいても、災害の甚大化など、温暖化の影響の増大の可能性
- エネルギー需要構造の変化
 - 環境性、利便性、経済性、供給安定性などの面で優位性を持つ電力へのシフト可能性
 - 技術開発の進展に伴い、業態を越えた競争が進展する可能性
- 設備の高経年化
 - 今後、長期間を経た設備が増加
 - 今後とも設備投資の効率化に努めるとともに、設備の延命化や余寿命診断、稼働中の設備と近接した設備更新など高度な技術を要する保全対策を行うことが必要
- ライフスタイルや価値観の多様化、少子高齢化などに伴う人や業務をめぐる環境の変化
 - 人々のライフスタイルや価値観の多様化
 - 少子高齢化の進展に伴う労働人口の減少、ワークライフバランスへの意識の高まり
 - 人材確保、技術継承など人や業務をめぐる変化への対応の必要性

2 経営の方向性

- (1) エネルギー情勢が大きく変化する中でも、環境にやさしいエネルギーを安定的にお届けする
 - エネルギー事業者としての責任を果たすため、原子力への取組みを安全確保を第一とし、着実に進めるとともに、再生可能エネルギー導入拡大、エネルギー効率の向上、新たな技術開発、災害の甚大化を踏まえた高経年設備の計画的な更新などを積極的に進める
- (2) 持続可能な社会の形成に向け、お客さまや地域社会などと共に考え、行動する
 - 世界的にエネルギーセキュリティや地球環境問題の重要性が高まる中、これまでの経済社会のシステムを持続可能なものに転換していくことが求められているが、お客さまや地域社会と協力し、非化石エネルギーへの転換や省エネルギーの推進など、九州全体のエネルギー需給構造転換に取り組んでいく
 - これまで培ってきた技術やノウハウを活かし、アジアを中心とした世界のエネルギーの安定供給や効率向上、地球規模でのCO₂排出量を削減する
- (3) 社員一人ひとりが仕事を通じて働きがいを得て、成長していく組織をつくる
 - 少子高齢化の進展に伴い労働人口が減少していく中、グループ会社を含めた人材の確保や技術継承、社員の年齢構成といった様々な課題への対応を進め、社員一人ひとりが仕事の成果をあげることを通じて、働きがいを得て、成長していく、そして、社員の自発性をそれぞれの職場で支えていく、そういう組織をつくる

○ 事業活動を通じて生み出す価値



3 目指す姿と取組み

- a 電源関係……………非化石エネルギーを中心とした電源構成
- b 流通関係……………災害の甚大化や社会ニーズの変化を踏まえた供給信頼度の維持
- c 販売関係……………快適性・環境性の両立した付加価値の高いサービスの提供
- d 技術開発関係……………長期的な経営戦略の実現に向けた効果的な技術開発
- e コミュニケーション・協働……………再生可能エネルギーの開発など、お客さまや地域社会など当社の事業活動に関わる全ての方々との協働によるエネルギー需給構造転換への対応
- f 海外におけるエネルギー事業関係……………九州で培った技術やノウハウを活かし、対象国・地域におけるエネルギーの安定供給や効率向上、地球規模でのCO₂排出量削減に貢献
事業の社会的意義や国内事業との相乗効果などを踏まえた事業展開による成長
- g 社会・生活サービス事業関係……………保有する有形無形の経営資源を活用し、事業の社会的意義やエネルギー事業との相乗効果などを踏まえた事業展開
- h 人・業務・組織関係……………社員一人ひとりが、仕事を通じて働きがいを得て、成長していく組織
- i 財務関係……………リスク評価を踏まえた業界トップクラスの効率性の確保
厳しい経営環境の中での安定配当や自己資本比率の維持継続